

2013年度 学校評価報告書（京都聖母学院中学校・高等学校）

学校目標	カトリックの人間観・世界観にもとづく教育を通して、社会に貢献できる人間を育成する
------	--

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カトリックの精神を反映した学校生活を実現し、豊かな人間性を育てる ・きめこまやかな学習指導を継続しながら、新しい教育活動にも取り組む ・学校生活の様子を保護者にわかりやすく伝えるとともに、入学希望者へも発信を行う
------	---

学 校 自 己 評 価			
目 標		評 価	
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果
1	カトリックの精神を反映した学校生活を実現し、豊かな人間性を育てる	①朝の祈りの放送前、キリスト教の精神を分かり易いお話で伝える機会を持つ。 ②生活指導において、単なる反省ではなく、よりよく生きるための名言や訓示を与え、前向きな改心を促す。また生徒のよい言動があれば報告用紙を使って教員間で情報共有できるようにした。 ③福祉関連の行事をはじめとして直接的・間接的に他者に奉仕する精神を育てる。	①一日のはじまりにおいて、落ち着いて考える時間をもつことで、日中の言動へ潜在的な影響があった。 ②反省文を罰としてとらえるのではなく、自分を見つめ成長のきっかけとして書くことができるようになった。見過ごされがちな小さな善行を認められることにより、教員と生徒の信頼関係につながった。 ③手話講座やアイマスク車いす体験を通して、他者の気持ちを理解し、尊重する気持ちが芽生えた。福祉施設訪問ではそれぞれの施設ごとに体験から得たことがらを分かち合うことができた。
2	きめこまやかな学習指導・進路指導を継続しながら、新しい教育活動にも取り組む	①高校2年生I類に対して同志社女子大学 学科講座を行う。 ②グループ学習の機会を増やし、コミュニケーションをはかりながら学び合う授業への取り組みを行う。 ③コース・クラス別の会議を持ち、クラスの特性や個々の志望・学習到達度に合わせた進路指導を行う。	①来年度の進路選択にむけて、文系全学部において大学の教授を招き、講義を行った。高校3年生の同志社女子大学クラスを考えるためのよい機会となった。 ②国語や理科をはじめ、たくさんの教科において新しいグループ学習の取り組みが行われた。中には情報機器を導入した授業を積極的に行う教員もおり、研究授業や参観授業を通して他教員の刺激にもなった。 ③担任・進路・教務を交えたクラス分析と個人の学習状況に対する意見交換を行い、今後の指導方針を確認した。
3	学校生活の様子を保護者にわかりやすく伝えるとともに、入学希望者へも発信を行う	①学院小学校の保護者・児童と積極的に交流をはかり、入学前から、本校の教育活動に対する信頼感を持っていただく。 ②従来の「SEIBO LIFE」だけでなく、修学旅行の様子などを独自の期間限定ブログで発信するなど工夫し、情報提供に努める。 ③対外入試イベントの回数を増やしたり、説明会の開催地域を広げ、たくさんの方に京都聖母の教育を認知していただく。	①入学前の事前相談会の回数を増やし、ほとんどの学内進学保護者と会う機会をもつことができた。また学院小学校の行事サマーチャレンジにも中高特設ブースを設けるなど、たくさんの学内小学校対象行事で児童と中高生の交流を行った。 ②インターネットを利用したタイムラグが少ない情報発信により保護者の安心感を得ることができた。 ③これまで認知されていなかった地域からの問い合わせが増え、高校入学者の増加につながった。

学 校 関 係 者 評 価
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>生徒、保護者、教員に評価アンケートを行った。 生徒対象…学校生活評価 授業評価 保護者対象…学校生活評価 授業評価 教員対象…学校自己評価 以下に評価と意見を集約する。</p> <p>①保護者対象アンケート 昨年度からの大きな変動はなく、肯定的な回答の割合が多いことから一定の満足感はあると推測される。しかし学年別に分析すると中学3年生の肯定率が他より低いことがうかがえる。また、授業内容についての評価が低下傾向にあり、それと相関して授業についてのコメント数も多くなっている。</p> <p>②生徒対象アンケート 保護者対象アンケートと連動するように、多くの質問項目において中学3年生付近で評価が低くなる傾向がみられる。生徒の精神年齢の発達段階と生活指導の行き違いが多いこともひとつの理由として挙げられる。また、卒業前の高校3年生の評価が高い方に回復していることは、本校の教育や指導に対する生徒の受け止め方を如実にあらわしているといえる。授業評価は全般的に肯定的な結果であったが、個々の教員を見ると、満足度の格差が大きい。</p> <p>③教員対象アンケート 保護者・生徒の評価と教員の評価で乖離がある項目について、現実認識をし、改善する努力が必要である。また、宗教教育への意識や学校への誇りについても高まるよう、勤続年数の少ない教員に対しても研修などを行っていきたい。</p> <p>学校評価委員会での意見 私学の教員の人間力教育力に期待して入学させているので、授業評価の低い教員への対処をしてほしい。 人権意識を育てるには、宗教教育とは別の道徳教育も必要ではないか。</p>